

夏の星座

白鳥座 南半球の南十字星に対し、北十字星とも呼ばれる。
大神ゼウスが変身し、天の川に沿って飛んでゆく姿といわれています。

こと座 音楽の名手、オルフェウスの豎琴。
オルフェウスは、亡くなった妻エウリディケを返してくれ！と冥界の王プルトーンの前で琴をかなでて、許しを得る。しかし、「地上に帰り着くまでは後ろを振り返ってはならぬ。」と言う王との約束を破ってしまった。
この為、エウリディケの姿は煙のように消えてしまった。
悲しみのオルフェウスは山野をさ迷い歩き、やがて愛用の琴は星座になった。

わし座 大神ゼウスの使いの鳥とも、ゼウス自身が変身した黒鷲の姿とも言われる。

白鳥座のデネブ、こと座のベガ、わし座のアルタイルを結んで出来る三角形を**夏の大三角形**という。

又、織女星ベガと牽牛星アルタイルは、7月7日の夜、年に一度のデートを楽しむ七夕伝説でおなじみの星です。しかし、この二つの星は距離が15光年離れており光のスピードで行っても15年かかるのでは、年に一度は無理かもしれませんね。

さそり座 さそりは、いつも力自慢を鼻にかけ威張り散らしていた狩人オリオンを刺し殺した。この為オリオンはさそりを恐れ、さそりが出ている夏の空にはすがたを見せない。お互い夏と冬の星座で、正反対に位置し、同時には見られないというわけです。

いて座 夏の天の川が、南で、低くひとときわ明るく幅広くなっているところに、身を潜めているのがいて座です。
いて座とは「射手座」のことで、上半身が人間で、下半身が馬という半人半馬のケイローンが矢を射る姿を表している星座です。
ケンタウロス族の馬人ケイローンは、ギリシャ神話で活躍する英雄たちに教育を施した賢人とされています。一番の目印は「南斗六星」の星の並びで、西洋ではこれをミルクディパーと呼び、天の川のミルクをすくうさじという意味です。